

第26回日本色彩学会賞

日本色彩学会賞を受賞して

Acknowledgement of receiving the CSAJ Award

久下 靖征

Yasuyuki Kuge

名誉会員／職業能力開発総合大学校名誉教授

Honorary Member / Professor Emeritus, Polytechnic University



この度の日本色彩学会賞を頂き、まことにうれしく、会員の皆様に心からお礼を申し上げます。

私が日本色彩学会に入会を認められたのは1982年で、以来、表色値変換のアルゴリズムおよび表色値の特性をテーマに、色彩学会誌への投稿活動を続けてきた。すんなり掲載可となることはなく、原稿用紙には朱書が入り、多くの査読意見が付いて戻ってくるのが常だった。一旦は気落ちするのだが、指摘や助言にしたがって書き直す度に少しずつよい論文になっていくのが実感できた。若い頃から一人でやってきた私にとって、査読者はまさしく指導者であり、有り難い存在だった。原著論文5編、資料2編、特集論文1編が掲載されているが、その中でも、久下靖征、葛西清重、林正剛：XYZ表色系からNCS表記への座標変換プログラム、色学誌、17、203（1993）と久下靖征、武井昇、川本勝巳、松本和博、代永敏仁：PCCSトーン系列色における共通要素、色学誌、23、23（1999）の2編が著者としては思い入れのある論文である。いずれも卒研究生の若い力に助けられた。投稿活動を続けるうちに研究会や委員会に呼ばれるようになった。そこでの小松原仁、佐野和雄、鈴木恒男、側垣博明、坂田勝亮の各氏との交流で大いに刺激され励まされた。これもまた有り難いことであった。

学会の運営には1990年から4期8年間を会計理事として務めた。学会は1999年までの10年間で、会員数が787名から2037名、会計規模が1160万円から5460万円にまで拡大発展した。1997年にはAIC京都大会が開催された。開催資金は学会からの拠出金の他、小町谷朝生募金委員長のご尽力で多大な寄付金が集ま

り、それを橋本健次郎代表幹事が上手に使われて、学会に予想を超える還付金もたらされた。それが廻り廻って2015年のAIC中間大会'東京の開催原資になった。財政の要諦は入るを量って出るを為すだが、入るが少なければ思うように活動できない。よい時期に会計を担当させて貰ったものである。その後、2000年から2期4年を関東支部長として務めた。小町谷朝生、北畠耀、永田泰弘の三顧問のご支援を受け、理事、支部役員あるいは応援団としてつぎの方々が活動を共にしてくれた。井澤尚子（東京家政学院短大）、武井昇（能開総合大）、棟方明博（資生堂）、宇田川千英子（目白デザイン専門学校）、名取和幸（日本色研）、権田仁美（カラリスト）、野坂瑛子（ColorWiz）、長谷川博士（日本ペイント）、中嶋芳雄（富山大）、神山瑤子（EveGarden）、松田陽子（Meme）、高松智子（UCI）、大島未有希（群馬のColor風）、遠山令子（群馬のColor風）、岩井彌（パナソニック）；所属は当時。顔ぶれから学会の活動領域が色彩科学のみならず、実学を含む多様な色彩学へと広がってきたことが分かる。関東支部ではワイワイガヤガヤで事を決め実行に移していった。会議の後は決まって目白駅界隈で懇親会が開かれた。楽しい4年間だった。こうした肩肘張らない、垣根のない学会とその活動に、八木橋利昭事務局長の存在は不可欠だった。

ここではお名前を挙げていない方々を含め、衆縁に恵まれて充実した活動の日々を送ることができた。改めて、会員の皆様に深甚なる感謝の意を表します。有り難うございました。